

Y3-17

褥瘡発生数の検証

前橋赤十字病院 医局診療秘書室

○高坂 恵美子、貞形 由子、大西 一徳

【目的】過去2年間の月別の新規入院患者数、褥瘡危険因子保有者数、褥瘡発生数を検証し、今後の褥瘡対策に役立てる。

【対象および方法】当院では平成18年度より電子登録による褥瘡、栄養、口腔状態を入院時および週1回行い、その褥瘡危険要因ランクは、OHスケールで評価している。また褥瘡発生時にはPU報告を提出することとなっている。これらの結果を毎月集計し、月に一度褥瘡対策委員会で検討しており、今回はこれらのデータを用いた。

【結果】褥瘡危険因子を有する患者は、平成19年度に9,225人、平成20年度9,591人で増加傾向にあった。年間褥瘡発生率は、平成19年度1.50%、平成20年度が1.75%であった。しかし、平成20年10月に体圧分散マットレスの変更後、その発生率は減少傾向を認めた。なお、新規入院患者に対する褥瘡危険要因ランク別患者の割合は、平成19年度：軽度18.40%、中度5.0%、高度0.96%、平成20年度：軽度17.88%、中度5.32%、高度0.94%であった。

【考察】平成20年度に褥瘡発生率がわずかに増加した背景には褥瘡危険因子を有する患者が増加したことがあるかもしれない。今後も同様の検討を続け、体圧分散マットレスの整備等を適切になるよう努めたい。

Y3-18

DESIGN-Rスコアを用いた部位別褥瘡の検討

前橋赤十字病院

○岡田 加代、星野 絵美、小暮 亜紀、
木村 公子、原田 芙美子、大館 由美子、
安部 万理絵、大西 一徳

【目的】2008年度に発表された日本褥瘡学会のDESIGN-Rを用い仙骨部、踵部、大転子部、尾骨部の褥瘡について治癒期間等について検討する。

【対象および方法】2006年12月から2009年2月までに当院入院中に褥瘡回診で加療し、治癒が確認された褥瘡178部位（仙骨部80、踵部35、大転子部32、尾骨部31部位）を対象とした。点数が経過中にDESIGN-R点数が増加した場合には点数が最大の観察日、点数を採用した。

【結果】DESIGN-R点数の平均値は、仙骨部 7.06 ± 0.47 (MEAN \pm SE)、踵部 8.11 ± 0.72 、大転子部 7.44 ± 0.95 、尾骨部 5.26 ± 0.41 で、尾骨部で他の部位に比べ、有意に低値であった。治癒までに要した期間(週)は仙骨部 2.38 ± 0.29 、踵部 2.31 ± 0.26 、大転子部 2.25 ± 0.42 、尾骨部 1.97 ± 0.27 で、尾骨部は仙骨部に比し有意に短かった。一方、1週間で治癒した極軽症例を除いた仙骨部37、踵部23、大転子部13、尾骨部15部位の検討では、DESIGN-R点数の平均値はそれぞれ 8.46 ± 0.84 、 8.48 ± 0.84 、 9.85 ± 2.10 、 6.40 ± 0.70 であった。この場合の治療期間は同様に 3.97 ± 0.51 、 3.00 ± 0.30 、 4.08 ± 0.82 、 3.00 ± 0.43 で有意差はなかったが、DESIGN-R点数を治癒期間で除した1週間あたりの改善率は仙骨部 2.45 ± 0.19 、踵部 3.26 ± 0.40 で、踵部では仙骨部に比し有意に高かった。

【考察】今回検討した4部位では、尾骨部の褥瘡は軽く、短期間で治る傾向が認められた。一方極軽症例を除いた場合、踵部の褥瘡1週間あたりの改善率は高い傾向を示し、除圧のしやすい部位であることが関係する可能性が考えられた。